

[認知症対応型共同生活介護用]

## 調査報告概要表

作成日 平成19年 7月22日

### 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4673400091
法人名	社会福祉法人 曙福祉会
事業所名	村長の家認知症対応型共同生活介護事業所
所在地	鹿児島県日置市吹上町永吉14145番地 (電話) 099-296-2308
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成19年7月22日

### 【情報提供票より】19年5月1日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成 12年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.2

#### (2)建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	階建ての 1階 ~ 1階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	無し	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	700 円		

#### (4)利用者の概要( 5月1日現在 )

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2		4 名	
要介護3	1 名	要介護4			名
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 86.3 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	しいの内科クリニック 馬場病院(外科) ニコニコ歯科医院
---------	------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市より車で約1時間の閑静な住宅中心地に位置する、設立7年目のホームである。昔の村長さんの家を住民の力で骨組みを残し、大幅に改修しグループホームに作り変えた。また、事故防止や防災の必要上、試行錯誤の末工夫をし、現在の落ち着いたたたずまいの中にも安全を考慮した建物になっている。居室は全室和室になっており、個性のある居心地のよさそうな部屋である。利用者は職員の静かな声掛けにゆったりとした生活を送っている。障害者と高齢者の介護施設を多数持つ法人は、設立当初から市町村の事業との結びつきが強く、地域との連携も強い。運営推進会議への地域住民からの参加も多く、意見も積極的で、消火栓の設置場所を再考するなど町全体の防災の役にもたっている。職員は利用者一人一人の個性を見つけ引き出す努力を行い、利用者の会話がたえる事はなく、憧れの村長さんの家に住む皆さんの誇らしい顔が印象的なホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価で指摘された運営理念の明示については、定例会などですみやかに職員に周知し、改善計画シートに具体的な改善内容や評価の結果を記入し、改善を行っている。現在は入居時の説明に使うパンフレットに運営理念を明示し、食堂や玄関にもわかりやすく理念を掲示している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目について、職員全員に前もって自己評価を行ってもらい、それをミーティングで話し合いながら集約した。また、運営者・管理者・職員は評価の意義を理解し、サービスに活かしていこうとする姿勢で積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は当初から2ヶ月に1回開催し、自治会長・役場職員・家族・運営者・管理者などが参加し開催している。参加者は運営推進会議の意義や外部評価について確認し、また、防災については地域の防災体制の見直しに寄与している。現在は地域との交流の拡大に向けて検討を行っており、先駆的な取り組みに努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や運営推進会議の開催により、家族の要望や意見を聞く機会を設け、特に料金など誤解を生じやすい事については丁寧に説明を行っている。また、苦情・相談受付担当者・第三者委員・行政窓口を明記し、入居の際に詳しく説明を行い、苦情があがればいつでも対応できる仕組みがある。家族からの相談等には「相談記録簿」を作成し、ミーティング等で検討し解決を図り、家族へも報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の施設からやや離れたところに建つ住宅地の中の民家であるため、住民として自治会に加入し奉仕活動にも参加して周辺にも受け入れられている。また、小学校がすぐそばに有ることで学校行事の案内を頻繁にいただき、行事への参加も多い。さらに、敷地内で学童保育を行い、保育時間外も含めて子供やその親との交流があり、様々な年代との良好な関係を築いている。

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で毎年見直しを行っているが、だれにでも分かりやすい今の理念がすばらしいため、再確認をし継続している。しかし、地域密着については理念に含んでいないため、今後取り組みたい意向である。	○	地域密着型サービスとしての取り組みはすでに歴史があり、住民にも認められているところだが、理念の中に掲げることによってさらに地域や職員の意識付けを図り、当グループホームの特徴としてもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や食堂にわかりやすく掲示するとともに、パンフレットにも明示し、誰にもわかりやすくなっている。また、職員はおりに触れ理念に立ち返り、日々の介護で意識化し、当グループホーム介護の基本となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の施設からやや離れたところに建ち住宅の中の民家であるため、住民として自治会に加入し奉仕活動への参加も行い、周辺にも受け入れられている。また、小学校がすぐそばに有ることで学校行事の案内を頻繁にいただき、行事への参加も多い。さらに、敷地内で学童保育を行い、保育時間外も含めて子供やその親との交流があり、様々な年代との良好な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目について、職員全員に前もって自己評価を行ってもらい、それをミーティングで話し合いながら集約した。また、運営者・管理者・職員は評価の意義を理解し、サービスに活かしている姿勢で積極的に取り組んでいる。昨年度の外部評価結果についても、定例会などですみやかに職員に周知し、改善計画シートに具体的な改善内容や評価の結果を記入し、改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は当初から2ヶ月に1回開催し、自治会長・役員職員・家族・運営者・管理者などが参加し開催している。参加者は運営推進会議の意義や外部評価について確認し、また、防災についてはホーム前の道に消火栓を設置するなど地域の防災体制の見直しに寄与している。現在は地域との交流の拡大に向けて検討を行っており、先駆的な取り組みに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	もともと町の福祉を担ってきたという歴史があり、行政との連携を保っており、各種相談や講演依頼を受諾するなど関係作りも積極的に行い、高く評価されている。また、地域包括支援センターとも連絡を取り、グループホームに来てもらうなど協力して課題解決が図れるように着実に1歩ずつ関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している便りにより、個人別に最近の生活状況や心身の状況、行事計画について写真を添えて細かく報告している。また、利用者の健康状態に不安があるときには速やかに家族へ連絡している。家族の訪問時にはできるだけ会話の機会を設け、日常の様子を話したり金銭出納については毎月領収書を添え報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の家族会や運営推進会議の開催により、家族の要望や意見を聞く機会を設け、特に料金など誤解を生じやすい事については丁寧に説明を行っている。苦情・相談受付担当者・第三者委員・行政窓口を明記し、入居の際に詳しく説明を行い、苦情があがればいつでも対応できる仕組みがある。「相談記録簿」を作成し、ミーティング等で検討し解決を図り、家族へも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動や離職が利用者にも与える影響を十分理解し、最小限に抑えるように努力している。また、新任者は利用者にも不安を与えないために個別に自己紹介を行うなど、利用者や家族が不安を持たないように配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、研修の機会を確保している。毎月2回開催している研修は、職員の希望やアンケートで興味のわくものを取り上げ、段階に応じたものを選択している。所外の研修も経験に応じて受講し、他の職員にも伝達を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、質の確保のために他法人の同業者との交流が不可欠であることを認識しており、他のグループホームとの意見交換等交流を図り、サービスの質の向上に努めている。また、年1回は他のグループホームに視察研修に出かけ、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方については、家族・ケアマネジャー・サービス事業所・主治医等から情報収集を詳しく行い、必要時には入居予定者や家族に在所してもらい、話をしながら生活環境や入居後の希望について把握し、入居当初に混乱がないように配慮している。しかし、事前に入居予定者の自宅を訪問するなどの関係作りや利用者自身との面接も出来ないこともある。	○	サービスを納得して利用できるまで時間がかかる方は多数おられるが、本人の安心と納得の確保がその後のスムーズな利用のためにも不可欠である。家族やケアマネジャーなど介護サービス関係者との連携は十分だが、さらに、サービス利用前からの本人との関係作りや生活環境の把握等の取り組みが期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は共に暮らす同士として、また、目上の年配者として、お互いを認め協力し合って生活している。特に料理の仕方や歌、戦争体験などを教えてもらったり、うれしいことがあったときには共に喜びあい、支えあう関係を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に利用者の周囲の人たちから生活歴や暮らし方などを聞き取り、また、入居してからは本人の意向を把握するために聞くことを大切にし、入居後の生活に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向や家族・主治医からの情報により、具体的な個別の介護計画を作成している。また、定例会でケアプランについてモニタリングを行い、職員の気付きや考えを含めて検討することにより共有化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会で利用者一人ひとりの暮らしを振り返り、介護計画について変更の必要性を含めて検討している。また、計画作成担当者は毎月モニタリングを行い記録している。また、利用者の状態が変化し、計画の見直しが生じた時には再アセスメントを行い、計画の立て直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対して受診時の送迎や付添いなど、安心して暮らせるための支援を行っている。また、高齢者学級や婦人学級での講演や相談など、地域の高齢者やその家族との連携を通じて、地域とホームとの継続やインフォーマルサービスの開拓に取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての希望を確認し、なじみの医師による診療が継続できるよう支援している。また、専門医の受診が望ましい利用者は家族に情報の提供を行い、医師への情報提供をスムーズに行うように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる指針」を作成し、家族に説明を行っている。また、状況が変化した時にはそのつど利用者の意思の確認を行い、同意書を作成している。ターミナルに関する研修も職員とともにやっている。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングを活用し、言葉のかけ方などについて職員の意識の向上を図っている。記録の保管は部屋を決め、訪問した人の目に触れないように配慮している。グループホーム便りは一人ひとりに作成し他には配布せず、広報誌の写真掲載については家族の了解を得るようにして、プライバシーが守られるように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調に合わせて起床・朝食や入浴時間など利用者のペースを守っている。また、常に利用者の希望を聞くように気をつけ、気持ちを引き出すことを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は会話を楽しみながら一緒に食事をしている。また、献立は基本的には栄養士の立てた物を利用するが、誕生日や差し入れをいただいたとき、収穫したものがあるときなどは、利用者の希望を取り入れたものを作っている。食事の支度や片付けも職員とともに行い、張り合いや自信、心身の力の維持や向上につながっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めず毎日入浴でき、基本的には午後からの入浴である。入浴をゆっくり楽しめるように時間はまちまちで、安心して入浴できるように職員がゆっくり支援を行うなど、羞恥心や恐怖心にも配慮して一人ひとりにあった支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の情報収集などから利用者の生活歴や力を活かした活動を探し、畑仕事・掃除・台所仕事・踊り・歌・買い物など、役割・楽しみごとを行う場面作りをしている。また、日常の生活の中で役割を見出し、力を活かす支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者は外出する事が利用者にとって大切なことであると認識をし、利用者の身体状況や希望により程度に差があるが、全員が毎日1回は外出をしたり庭に出るよう支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員が鍵をかけないケアについて認識し、鍵をかけない方針である。外出傾向のある方を把握しており、買い物の機会を増やしたり家事を手伝ってもらうなど工夫すると共に、近所の方や商店へ協力を依頼して鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は夜間想定も含め毎月行い、消防署の協力を得ている。また、年1回は地域の防災訓練に参加をしている。しかし、地震や水害については想定した訓練はまだ行っておらず、災害時の食料や飲み水等の備品も今後検討課題である。	○	火災訓練に関しては実践的な訓練を行い、地域の理解や協力も得ている。大きな川が傍を流れていることもあり、今後は水害や地震についても想定した訓練や地域との話し合い、備品の整備が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとり記録し、水分摂取については食事摂取量が少ない時に記録している。また、水分についてはできるだけ促したり、お茶の時間を設け楽しみながら一日の水分量が確保できるように工夫している。食事の嚥下機能が不十分な方には、個々に合わせた食事形態や献立についてのアドバイスをもらい支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で落ち着いた食堂に大小のテーブルを配置し、廊下には座り心地の良いベンチを並べ利用者のお気に入りの場所になっている。照明も軟らかく、季節の花がふんだんに飾っており、落ち着ける空間をそここに確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はすべて和室でなじみの家具を配置し、家族の写真を飾るなど、安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、家族の訪問も歓迎し宿泊も可能となっている。		